

北九州市立ふれあいむら社ノ木デイサービスセンター

指定管理者検討会 会議録

- 1 開催日時 令和6年10月15日（火） 13:00～15:00
- 2 場 所 北九州市役所庁舎 10C会議室
- 3 出席者 （検討会構成員）
中野構成員、中村貴志構成員、中村順子構成員、森野構成員、野村構成員
（事務局）保健福祉局介護保険課
介護サービス担当課長、施設整備担当係長、担当職員
- 4 会議内容
 - 当日の配布資料・議事次第等について、事務局より説明。
 - 構成員の互選により、座長を選出
 - 応募団体によるプレゼンテーション及び質疑応答
 - (1) 応募団体との質疑応答について
 - 質疑応答概要
 - （構成員） デイサービスセンター内に厨房があるが、食事は手造りで提供するのか。昼食を楽しみに通所する方が多いので、できるだけ手づくりのものを提供してほしい。
 - （応募団体） 調理員が確保できるかによるが、募集してもなかなか集まらない現状がある。このため、必要に応じてチルド食や冷凍食品の活用も視野に入れており、雇用できる調理員の数に応じて検討したいと考えている。
 - （構成員） 障害のある方の雇用について積極的に取り組んでいるのか。
 - （応募団体） 障害をお持ちの方が10名ほど働いており、介護職員や介護助手として活躍している。障害の程度は個人差があるため、特定社会福祉法人として、個々の状況を考慮しながら活躍の場を提供していきたいと考えている。
 - （構成員） 特別支援学校などと連携を図ったり、就労に向けての実習の場を提供したりするなどの工夫はあるか。
 - （応募団体） 現在、コロナ過の影響がまだ残っており、高齢者や基礎疾患をお持ちの方が重症化しやすい状況が続いている。そのため、実習生の受け入れを部分的に制限していることもあるが、できる限り実習生の受け入れは行いたいと考えている。また、不登校の児童への支援も一部行っており、昨年は不登校の児童が集まる場所に出向き、介護職に興味がある方に体験学習を提供した。
 - （構成員） 社会福祉法人等による利用者負担の軽減制度について、法人内での利用実績と周知方法を教えてほしい。
 - （応募団体） 特別養護老人ホームで2件の実績がある。制度について特段の周知はしていないが、施設入所の際に利用者負担軽減が必要な場合は、必ずケアマネジャーに事前に相談があるので、そこで個別にお伝えしている。

- (構成員) ICT化について、法人内や社ノ木デイサービスセンターでどのように進めていくのか。
- (応募団体) 社ノ木デイサービスセンターの利用者のニーズをまだ把握していないので、今後ニーズを把握した上で検討していきたいと考えている。ICT化は幅広いため、介護サービスの種別や施設的环境によってニーズが異なると思う。たとえば、介護老人保健施設ではインカムを導入し、特別養護老人ホームでは見守り機器などを導入している。デイサービスではカラオケ機器を使った全国を繋ぐオンライン体操を行っており、職員の休憩時間が確保され、また、全国の参加者と一体感が生まれている。また、法人全体としては、勤怠管理や人事労務のICT化を進め、事務員の負担軽減を図りたいと考えている。今後、少人数で効率的に業務を行えるよう考えていく。
- (構成員) ICT化による一元管理において、メンテナンスなどの業務は専門的な技術者を雇用しているのか。
- (応募団体) 60歳以上の方の活躍ということで、退職された元SEの方などを実際に雇用して、小規模な相談に対応している。また、職員の質の向上を目指し、Webなどさまざまなスタイルの研修を取り入れている。
- (構成員) システム化、デジタル化していくという考え方と昔ながらの人の温かさなどの人とのバランスについては、どのように考えているか。
- (応募団体) ICT化を進めたからといって、人手が減るとは一切考えていない。むしろ、ICT化によって職員に余裕が生まれ、その結果、高齢者に対して優しく接することができるようになって考えている。余裕がないとイライラしてしまい、その結果、普段はしないような強い口調になってしまうことがあると思う。どの施設も同じような問題を抱えていると思う。職員が働きやすい職場を作ること、人間関係を構築する時間が生まれるという視点で取り組んでいる。
- (構成員) 福祉オンブズマン制度が利用者の満足度向上に貢献しているとのことだが、ふれあいむら大蔵や既存のデイサービスでは、どのような方法でどのような効果があったか。
- (応募団体) 全事業所に施錠した意見箱を設置しており、デイサービスでは四半期ごとぐらいに開錠して確認している。寄せられた要望の中で、実現可能なものは実現している。コロナ過のためオンブズマン委員の巡回が一時停止していたが、オンブズマン委員が利用者から意見を聞く取組みも行っている。この第三者の目が、サービスの質の向上に繋がっていると思う。
- (構成員) オンブズマン委員による意見聴取の再開はいつごろを予定しているか。
- (応募団体) コロナが収束した昨年一度意見聴取を行ったが、今年3月末に、オンブズマン委員の委員長が退任されたため、新たな専門的な方を委員長に迎え、その委員長とメンバーを再構築している。メンバーが揃い次第、再開したいと考えている。
- (構成員) ケアプランセンター三萩野と連携し、色々な相談に対応できる体制を構築するということであったが、距離的な懸念がある。どのように考えているか。
- (応募団体) ケアプランセンターについては、主任ケアマネジャーを確保できなかったため設置を断念した。ケアマネジャーは募集してもなかなか応募がない。利用者からの相談にはきちんと対応し、ケアプランセンター三萩野や地域包括支援センターと連携して対応していきたいが、定期的にケアプランセンター三萩野の職員が社ノ木デイサービスセンターに出向くことは一切考えてい

ない。ケアプランセンター三萩野が関与するとかえって複雑になるケースもあると思うので、個別に判断して対応していきたい。

(構成員) 介護と医療の連携について、社ノ木デイサービスセンターではどの医療機関と連携するのか。また、緊急時の対応はどのようにするのか。

(応募団体) 現在社ノ木デイサービスセンターを運営している法人が、どの医療機関と連携しているのかを確認する必要があるが、利用者の安心のためには既存の医療機関と連携を続けることが良いと考えている。デイサービスの利用者は、主治医との連携が基本となるが、ふれあいむら社ノ木の入居者の中には医療機関にかかっていない方もいるかもしれないので、その場合は個別に対応を検討する。

(構成員) 提案書にある重層的支援体制に期待しているので、もう少し具体的な説明をしてほしい。

(応募団体) 法人のスケールメリットの話だが、デイサービスの利用者やふれあいむら社ノ木への入居者が急に体調を崩して救急搬送した際、入院が必要ない場合に、法人内のショートステイの専用ベッドや老人保健施設の空きベッドを活用して対応することができる。そこには医師がいるので、これが重層的支援といえると思う。

(構成員) まちかど介護相談室について、毎月どのぐらいの相談者がいるか。

(応募団体) 窓口は開いているものの、相談者はほとんどいない。私たちのPR不足もあるかもしれないが、そこに訪れること自体がハードルになっているのではないかと思う。おそらく、区役所や地域包括支援センターに相談に行くケースが多いのだろう。ただ、まちかど介護相談室には、豊富な経験を持つ管理者が着任しているため、ほとんどの相談に対応できる。

(2) 構成員の意見交換について

○ 構成員は、提案概要のヒアリングと質疑応答を受けて各自得点を記入し発表。その後構成員全員で意見交換。

○ 意見交換概要

- ・ 質問に対してしっかりと答えられていた点は評価できる。
- ・ 当法人の経営理念である「先義後利」は、社会福祉法人としての使命を認識したものであり、その実現に向けた具体的な提案がなされている。
- ・ 当法人のデイサービスなどの実績から、当施設の設置目的や性格に対する理解は十分である。また、社会福祉法人としての理念や使命も明確である。
- ・ 1950年から74年間にわたる実績と、市内を中心に36の事業を運営している点は評価できる。また、特定社会福祉法人として公認会計士を設置しており、人的・財政的基盤が十分に整っている。
- ・ 目標管理制度を活用した人材の育成に力を入れており、利用者に寄り添う姿勢が見られる。また、働きやすい職場作りにも取り組んでいるため、今後利用者の増加が期待できる。
- ・ ふれあいむら大蔵の管理業務を25年以上行ってきた実績は評価できる。
- ・ 多くの専門的な資格を持つ職員を有しており、介護支援専門員受験対策講座の開催や受講費用の助成などにより、職員の質の向上に努めている点は評価できる。
- ・ 家族への情報開示方法やSNSの活用に工夫が見られる。

- ・ 社会福祉法人等による利用者負担の軽減制度については、より利用しやすい仕組みを作ると良い。
- ・ 意見箱は四半期ごとに開錠しているとのことだが、苦情や意見に対する迅速な対応が望まれる。
- ・ 福祉オンブズマン委員による巡回相談など、苦情を改善するためのシステムが整っている。
- ・ 利用者のニーズに合わせた選択的活動の効果に期待したい。
- ・ 生産性向上のためのデータの一元管理や情報共有は評価できる。
- ・ 既存の職員のうち、希望者は現状の待遇以上で再雇用を行うことは評価できる。
- ・ 障害者や高齢者の積極的な雇用に関する提案は評価できる。
- ・ 小・中・高への出前授業や体験学習に期待したい。
- ・ 地域交流サロン「クローバー」の運営や、地域に出向いて地域活動に参加している点は評価できる。
- ・ 管理職に多くの女性を採用している点は評価できる。
- ・ 長年の実績とそれに基づく提案は評価できる。当法人の強みを活かした重層的支援体制の構築や介護ロボット・ICTを活用したモデル的な介護の創出に期待したい。

○ 意見交換を行った後、各構成員の採点結果を取りまとめ、検討会を終了した。